



医師会シンボルマーク

みんなの健康

No.247

5・6

月号

最新医療情報

鶴見区在宅医療拠点 「さわやか相談室」

医療クローズアップ
在宅医療拠点が
新たに10区立ち上がりました

在宅医療の今
歯科の在宅医療
(訪問診療)について

みんなの健康 1 2015.5/6

- ◆健康の仲間たち らくらく体操で、元気はつらつ
- ◆こんな時どうする？ 胃がんが心配です！

表紙イラスト/あじさいの里
白鳳庵(瀬谷区)

横浜市医師会のホームページをご覧ください。

横浜市医師会

検索

待合室

鶴見区在宅医療連携拠点

「さわやか相談室」

医療と介護をつなぎ、在宅療養生活を支援

高齢者の割合の増加に伴い、今後、病院のベッド不足などが深刻になり、在宅での医療や介護の必要性がますます高まります。そこで横浜市は、在宅医療・介護の連携強化と拡充のため、「在宅医療連携拠点事業」を推進しています。

横浜市医師会もこの事業に全面的に協力しています。西区を皮切りに、区医師会立の訪問看護ステーション内に順次、連携拠点としての「在宅医療相談室」の開設を進めており、既に市内11区で相談室がオープンしました。

その一つ、鶴見区在宅医療連携拠点の「さわやか相談室」を紹介します。

JR鶴見駅の東口から歩いて10分弱。鶴見区役所にほど近い国道15号線沿いに、鶴見区休日急患診療所や区医師会が設立・運営す

る第1訪問看護ステーションなどが入居する3階建てのビルがあります。

鶴見区の在宅医療連携拠点「さわやか相談室」は、

ことしの1月初め、

このビルの中に新

設されました。鶴

見区には、もとも

と医療と介護につ

いて気軽に相談で

きる窓口として、

区医師会が独自に

作った「さわやか

相談室」があり、

名称はこれをそっ

くり踏襲。同時に、

連携拠点としての

パワーアップも図っ

ています。相談室

鶴見区医師会在宅部門の総括責任者 栗原 美穂子さん



には現在、ケアマネジャーの資格を持つベテランの訪問看護師2名が常駐。平日の午前9時から午後5時まで、各種の相談に当たっています。

その一人で、鶴見区医師会在宅部門の総括責任者として、区医師会の3つの訪問看護ステーションと介護支援ステーションを束ねる栗原美穂子さんに、さわやか相談室の役割と仕事について伺いました。

☆

「さわやか相談室」って、どのような仕事をするといいですか。

栗原 今、医療と介護の世

界では、「2025年問題」への対応が、緊急の課題になっています。10年後の25年（平成37）には、団塊世代が75歳を超え、寝たきりや認知症など医療と介護を必要とする高齢者も急増します。当然、病院のベッドは足りなくなり、在宅での医療や介護の必要性が高まります。

そこで、地域にある病院や歯科を含む診療所、地域包括支援センターなどの福祉や行政機関、あるいは訪問看護や介護支援ステーションなどと、ふだんから緊密に連絡を取り合い、自宅で療養する高齢者の方々が、必要な在宅医療や介護

サービスを継続的に受け、安心して療養生活が送れるようにサポートしていく。それが在宅医療連携拠点としての「さわやか相談室」の主な仕事です。

在宅医療と介護をつなぐ「橋渡し役」と言っても、いいかも知れません。

具体的にどのような仕事をするのか。もう少し詳しく教えてください。

栗原 相談室の名の通り、主要な仕事の一つは、在宅医療や介護に関する各種の相談と支援です。「退院して、自宅療養に移るので、今後の相談をしたい」「かかりつけ医がない。どう

したらよいか」「介護保険について教えて」「鶴見区の在宅医療について、情報が欲しい」など、様々な相談に応じます。

例えば、病院にいた高齢者が、退院して自宅療養に移る際に一番困るのは、お医者さんの問題でしょう。そこで相談室では、なるべく自宅近くで往診などの訪問診療をしているドクターを探し、かかりつけ医として紹介したりします。

また万一、自宅療養中に容体が急変した場合などに備え、鶴見区内で緊急入院ができる医療機関の情報提供なども行います。

「さわやか相談室」では、在宅医療や介護に関する勉強会や研修会なども開催しているそうですね。

栗原 正確に言うと、それらは「さわやか相談室」の発足以前から行われている事業です。

鶴見区医師会では、早くから在宅医療・介護の重要性に着目し、医師会立の訪

問看護ステーションと、ケアマネジャーが所属する介護支援ステーションを一体化して、「在宅部門」として独立させました。

そして、この在宅部門が中心になり、2010年(平成22)に「つるみ在宅ケアネットワーク」を設立。その事業の一つとして日頃、在宅医療や介護の仕事に携わっている多職種の方々に集まっていただき、意見交換などを行う合同勉強会を年2回開いています。

この勉強会には毎回、ドクターも数多く出席します。全体の参加者が100名を超えることも多く、「顔の見える多職種連携の勉強会」として、大盛況です。

また、在宅医療をテーマにしたドクター向けの研修会を開催して、訪問診療など在宅医療に関心を持ってくださるドクターを増やす試みなど

も行っています。このほか、病院や在宅で、がん患者の緩和ケアやターミナルケアに従事するスタッフの皆さんを対象にした、スキルアップのための研修会なども開いています。

それともう一つは、一般区民向けの「公開勉強会」です。毎回、大変な人気で、250〜300名近い方が参加します。

在宅医療や介護に関するこれらの勉強会や研修会は今後、「さわやか相談室」の事業の中に取り込み、ネットワークと一緒にやって、さらに充実を図りたい



訪問看護教育研修課長 鈴木 志律江さん

と考えています。

「つるみ在宅ケアネットワーク」や多職種連携活動の成果として、在宅で療養中の方のための「連携ノート」のアイデアも生まれました。これはどういうものですか。

栗原 区内にお住まいの療養者の方が、病状が悪化した時や緊急時、災害時などに安心して医療が受けられるよう、病歴や服用している薬、要介護度、かかりつけ医などの情報を記入し、病状が一目で分かるようになって「健康カルテ」です。ふだんは自宅に保管して置き、救急車を呼んだ時などに大変役立つと思います。表紙が黄色なので、「イエローノート」とも呼ばれています。

在宅ケアネットワーク活動の中からは、もう一つ「ハナミズキの会」支援合う遺族の会も生まれました。がんや病気で大切な方を失うと、残された遺族は深い悲しみや喪失感にさいなま

れます。そこで遺族が定期的に集い、心の内を語り合う。それがハナミズキで、語らいの場を提供することで悲しみから早期に立ち直れるよう、支援することを目的にしています。

在宅医療や介護に関する鶴見区医師会の活動は、本当に多彩ですね。最後に「さわやか相談室」の今後について抱負を。

栗原 「さわやか相談室」は、医療や福祉の専門機関や事業者だけでなく、一般区民からの相談も受け付けます。医療・介護について、気軽に何でも相談してください。そして、住み慣れた地域と家で、必要な在宅医療や介護サービスを継続的に受け、安心して療養生活が送れるよう、ぜひ相談室を活用してください。

さわやか相談室

TEL: 045-

503-1289

業務時間: 平日9時〜17時

在宅医療連携拠点が 新たに10区立ち上がりました

横浜市では、平成25年度からこの在宅医療連携拠点をモデル的に行ってきましたが、本年新たに10区で新規開設し、医師会が中心となって在宅医療相談を受け付けています。今回は、この医師会の取り組みについて、小幡進一郎先生に伺います。



横浜市医師会常任理事
小幡 進一郎 先生

横浜市の介護の必要な方は？

小幡 横浜市の75歳以上の高齢者は、現在82万人に達しています。その内の要介護認定者は13・7万人(16・7%)で、なんらかの支援・介護が必要な状況です。更に平成37年には認定者が24・1%になると推測されています。高齢者を取り巻く状況がますます厳しくなることが予測されます。最近では、認知症の問題もクローズアップされてきています。

私たちが高齢者になった時、どうなるの？

小幡 私たちが高齢者になった時に安心して地域の中で生活を営んでいくためにはどうすればいいのか？という問題に、国をはじめとして地方自治体も動き出しており、高齢者の医療と介護の連携強化を目指しています。

本来、一番良いことは健康長寿であることは言うまでもありませんので、若い時からの健康づくりと介護予防は重要です。しかし、いざ自分が介護を受けなければならぬ状況になった時、どの様なサービスを受けられるのかを相談することも必要です。

なぜ医師会が相談窓口になるの？

小幡 私たち医師会は、地域の中で介護が必要な方々と昔から連携をしてきました。横浜市18の全ての区に、訪問看護ステーションを設けているのも、積極的に在宅医療に取り組んできている証です。その看護ステーションを中心に、病院・かかりつけ医などの医療機関と介護サービス提供機関の相互連携を担って、患者さんが在宅でも必要な医療の提供を受けたり、サービスを受けたりとできるようにサポートをする事業が、今回の在宅医療連携拠点事業です。かかりつけ医から介護医療への切れ目のない連携こそが求められています。

開設区	開設日	開設場所	住所
西区	平成25年11月1日(金)	横浜市西区医師会館内	西区中央1-15-18
鶴見区		鶴見区医師会館内	鶴見区鶴見中央3-4-22
南区	平成27年 1月5日(月)	南区医師会館内	南区宿町4-76-1
青葉区		横浜市青葉区メディカルセンター荏田北事業所内	青葉区荏田北3-8-6
瀬谷区		横浜市瀬谷区医師会館内	瀬谷区橋戸1-36-1
旭区	1月13日(火)	横浜市旭区医師会旭訪問看護リハビリステーション1階	旭区二俣川1-88-24
緑区	1月19日(月)	横浜市緑区医師会館内	緑区中山町1156
金沢区	1月21日(水)	金沢区三師会館内	金沢区金沢町48
港北区	1月26日(月)	横浜市港北区医師会館内	港北区菊名4-4-22
中区	1月28日(水)	横浜市中区医療センター3階	中区本牧町2-353
都筑区		横浜市都筑区医師会館内	都筑区牛久保西1-23-4

『歯科の在宅医療（訪問診療）』について

横浜市歯科医師会・医療連携室 歯科医師・ケアマネジャー | 雨宮 和則 先生



まだご存知の方が少ない『歯科の在宅医療（訪問歯科診療）』の内容や役割、また歯科医師、歯科衛生士の活動内容の概略をご紹介しますので、ご説明したいと思います。

高齢化の急激な進行に伴い、要介護状態のためにご自宅で療養なさっており歯科診療所に通院するのが困難な患者さんが急増しています。

このような状況の患者さんに対しては、「歯科医師が訪問して診療を行い」対応しています。

横浜市歯科医師会では20年以上前から訪問歯科診療を担当する部署を設置しております。

訪問歯科診療では歯科医院外来と殆ど同様な治療や指導を受けることが出来ます。具体的にあげると以下のような内容になります。

- 痛い歯の治療や抜歯、レントゲン撮影、投薬
- 義歯の修理や調整、義歯の新製作
- 摂食嚥下障害(咀嚼・飲み込み不良)の方に対する治療やリハビリ等の助言
- 低栄養や、メタボリックシンドローム(日本語ではメタボ、代謝異常と表現されています) 対象者への栄養管理指導
- 歯周病と関連する全身疾患への対応に関する助言。(図-1のパンフレットをご活用下さい。なお、パンフレットは横浜市歯科医師会HPよりダウンロードするか、直接電話(045-681-1553)にて歯科医師会にご請求下さい。)



以上の治療等については全て保険が適用されます。

このほか、介護・療養に関する様々なアドバイスやご指導、訪問医師・看護師・ケアマネジャーなど関係職種の方々と連携を取り合うことによって、患者さんが出来るだけ在宅で安心・安全で快適な生活をおくれる様な活動も行っております。

口腔ケアで肺炎予防

次に本来のテーマからは少しはずれますが肺炎についてお話をさせていただきたいと思います。

ローマ時代の昔から「肺炎は老人の友」と言われてきました。現在でも75歳以上(後期高齢者)の死亡原因第一位は肺炎です。

何故こんなに医学が進歩した時代に、肺炎で死亡する人が多いのでしょうか。

◆どこに肺炎を起こす細菌が住んでいるのか？
◆どうしたら肺炎を予防できるのか？
などの質問を、患者さんやご家族、介護関係者さん達から頻りに受けます。

また、肺炎予防は訪問歯科診療の大きな目的の一つでもありますので、前述の疑問に対して簡単にご説明致します。

高齢者が罹る肺炎の原因にも色々種類があります。その中で最も多いのは『誤嚥性肺炎』で、食物が誤って気管に入ったり、就寝中に唾液が気管から肺に入ることによって生ずる肺炎のことを言います。

食物や唾液の中には肺炎を起こす細菌が含まれています。その細菌が常に住んでいるのはどこなのでしょう。

それは、実は「口の中」なのですが、この事実はあまり知られていません。歯と歯肉の間や舌の上などには沢山の細菌が住んでいます。従って、肺炎を予防するためには
①口の中を清潔に保ち、細菌数を減らすこと
②飲み込みの機能を出来るだけ正常に保つこと
この①②の処置を合わせて『口腔ケア』と言います。

訪問歯科診療では、治療だけではなく『口腔ケア』も重要な処置として、歯科衛生士が主に担当しています。

以上のように、訪問歯科診療をご利用になると、一時的な痛みの解消だけではなく、全身状態の維持、向上や疾患の予防を図ることが出来ます。

- ご利用は以下の様な手段がございます。
- ①横浜市歯科医師会の医療連携室に電話で依頼する(045-681-1553)
 - ②主治医、訪問看護師を通じて歯科医師会に依頼する
 - ③担当ケアマネジャーに訪問歯科の派遣を希望する
 - ④近隣の地域ケアプラザ(地域包括支援センター)に相談する
 - ⑤かかりつけの歯科医師が訪問診療可能な場合は直接依頼する
などです。

訪問歯科診療を利用して、口腔・摂食嚥下機能、また全身状態を良好に保ちより快適な在宅療養生活をお送り下さい。

らくらく体操で、元気はつらつ 軽快な曲に乗り、伸び伸びと

相鉄線・天王町駅から歩いて15分ほどの「横浜市西スポーツセンター」。ここで週2回、50歳以上の方を対象にした健康体操教室が開かれています。その名も「らくらく体操」。80代の女性を筆頭に、多くのシニア世代が集い、体操を楽しみながら、一生懸命、健康づくりに励んでいます。

☆

らくらく体操は、同センターが10年以上前から開いている人気のスポーツ教室の一つ。3カ月をワンサイクルにして、年間に計4



回開催されます。

昼下がりの午後1時過ぎ。センター4階の広々としたメインアリーナには、シニア世代の皆さんが大勢集まっています。その数ざっと50人ほど。

二人の先生の息もピッタリ

体操指導に当たっているのは、所属するNPO法人・横浜健指連から派遣されている高山朋子さんと、サポート役の白井栄子さんのふたり。

軽い準備体操の後、壇上から高山さんが張りのある声で「皆さん、体はほぐれましたか。では、本番にいきましょう」と呼び掛けます。広い室内にアップテンポの音楽が流れ、らくらく体操の始まりです。

壇上で前後左右、軽快に動き回る高山さんに合わせ

て、参加者たちも手や足を上下させたり、体を回したり、ステップを踏んだり、リズムミカルな動きを繰り返します。途中、水分補給の小休止をはさみながら、有酸素運動を中心にした体操が40分近く続きます。この頃には、みんな汗びっしょり。

教室の後半は、高山さんから白井さんへバトンタッチ。マットを使い、その上うつつ伏せになったり、仰向けに寝転んだりしながら、一転して静かな動きに変わります。最後はマットに座り、深呼吸などクールダウンの体操へ。こうして前後半を合わせ、たっぷり1時間近く。全身を存分に動かし、心地よい疲労感を残して教室が終了しました。



最後まで頑張り抜いてくれるんですよ」と明るく笑います。

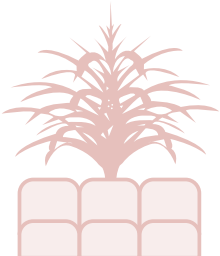
いい汗かき、体も軽く

今回初めて参加したという神奈川県在住の山田公江さんは「最初は慣れなくて、先生の動きについていけず、戸惑いましたが、とてもいい運動になりました。いい汗をかき、体がすごく軽くなった感じ。健康に良さそうなので、これからも続けていきます」ときっぱり。

らくらく体操と銘打っているものの、特に有酸素運動を主体にした前半の体操は、連続した動きが延々と続き、かなりきつそう。そこは高山さんも十分に承知の上で、「確かに高齢の方には、ちょっと大変かも。ですから、年齢や当日の体調に十分に配慮して、決して無理強いはいしません。でもね、皆さん途中でギブアップすることなく、

数少ない男性の一人で、地元西区に住む土谷祐成さんは、会社を定年で退職した後、健康維持のために、らくらく体操を始めました。「教室に参加して、はや10年近く。ずっと体操を続けてきたお陰で、血のめぐりが良くなり、体調もいたって良好。一時は高かった血糖値も下がり、最近はず常値に戻りつつあります。いま78歳ですが、いつまでも健康でいたいですね」と語っています。

「人並みにおごれや」。このフレーズ、皆さん一度は耳にしたことがあると思います。学生の頃に覚えたルート3の記憶法で1.7320508の語呂合わせです。「人並み」とは普通程度で世間なみという意味です。私のクリニックには仕事のストレスで疲弊した患者さんが多く訪れます。人間関係がこじれてしまったり、責任の重圧につぶれそうになったり要因は様々です。頑張り屋で責任感の強い人が多いようです。最近読んだ本に心が折れそうになったときに「はひふへほ」を思い出すと良いと書いてありました。仕事で行き詰ったときにハードルを下げてみると心が軽くなります。成果を求めすぎるときは「は」半分がいい、評価を求めすぎるときは「ひ」人並みでいい、何か特別なことを求めているときは「ふ」普通がいい、自己イメージが高すぎるときには「へ」平凡でいい、頑張りすぎているときは「ほ」ほどほどでいい。もちろん、状況に応じてハードルを上げて「人並み」以上の努力やチャレンジしていくことも必要でしょう。この「はひふへほ」、仕事以外に生活習慣にも通じるかもしれません。健康維持のため運動、食事、アルコールはほどほどに。(引用文献：渡部 卓：折れやすい部下の叱り方。日本経済出版社。2012) Y.S.



こんな時どうする

胃がんが心配です！ どうしたらよいですか。

川村クリニック かわむら 川村 ふみお 典夫

でも胃がんって
どんな病気ですか？

胃がんは胃の内側の粘膜にできます。ピロリ菌、胃酸、食べ物の中に含まれる発がん物質、などいろいろな刺激により、がんができます。

診断してもらうには
どうしたらよいですか？

X線検査や内視鏡検査により診断することができます

40歳を超えたら
毎年、胃がん検診を



す。胃がんは日本人に多い病気です。40歳を超えたら毎年1回は胃がん検診を受けることができるの良いですね。

胃がん検診ですか？

横浜市では、市による胃がん検診が40歳以上の市民なら毎年度1回受けることができます。

今までは、バリウムによるX線造影検査だけでしたが、平成26年4月よりは、モデル事業として、内視鏡胃カメラによる胃がん検診も一部の医療施設で受けることができるようになりました。受けられる医療施設、一般的な健診・検査の質問は、「横浜市けんしん専用ダイヤル」66412606

で答えてくれます。

最近は診断レベルも向上して早期胃がんが多く発見されるようになっており、また治療法も、内視鏡で取り除いたり、手術も負担の少ない改良がされており、多くの方が治療後には、仕事に復帰できます。

でも胃がんと言われたら
どうして良いかわかりません

そうですね、びっくりしてしまいますね。でも検診は受けておくことが大切です。胃がんは消化器のがんの中でも治りやすいがんです。ですから早期で発見することが重要です。検診を受けることが重要で、発見が遅ければ大変なことになります。もし胃がんと言われたら、慌てないでください。検診を

どんなことを
調べるのですか？

受けた施設やかかりつけ医とも相談して、まずは精密検査をして、どういう状態なのかを的確に診断してもらうことです。それによってステージが決まり、治療方針が決まってきます。

胃がんの広がりや深さ、がん細胞の性質、転移の有無や範囲、また全身状態を精密に調べます。それによって、ステージが決まり、ガイドラインとそのほかの状況により、治療方針が決まります。治療法には開腹手術の他に内視鏡による切除、腹腔鏡による切除、抗がん剤などによる化学療法、放射線療法などが有ります。

休日・夜間に急病になった場合は

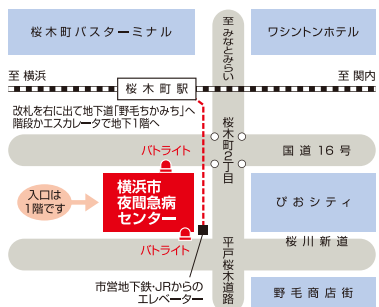
休日の昼間はこちらへ

内科・小児科 診療時間：午前9時～12時 午後1時～4時	内科・小児科・※歯科 診療時間：午前10時～午後4時
青葉区休日急患診療所 ☎(045)973-2707	金沢区休日救急診療所 ☎(045)782-8785 ※但し、歯科についてはGW・年末年始を除いて、午前10時～正午まで
内科・小児科 診療時間：午前10時～午後4時	
旭区休日急患診療所 ☎(045)363-2020	都筑区休日急患診療所 ☎(045)911-0088
泉区休日急患診療所 ☎(045)801-2280	鶴見区休日急患診療所 ☎(045)503-3851
磯子区休日急患診療所 ☎(045)753-6011	戸塚区休日急患診療所 ☎(045)852-6221
神奈川区休日急患診療所 ☎(045)317-5474	中区休日急患診療所 ☎(045)622-6372
港南区休日急患診療所 ☎(045)842-8806	西区休日急患診療所 ☎(045)322-5715
港北区休日急患診療所 ☎(045)433-2311	保土ヶ谷区休日急患診療所 ☎(045)335-5975
栄区休日急患診療所 ☎(045)893-2999	緑区休日急患診療所 ☎(045)937-2300
瀬谷区休日急患診療所 ☎(045)302-5115	南区休日急患診療所 ☎(045)731-2416

毎日の夜間はこちらへ

横浜市夜間急病センター ☎(045)212-3535 内科・小児科・眼科・耳鼻科：午後8時～午前0時	①横浜市救急医療情報センター #7499 24時間対応
横浜市北部夜間急病センター ☎(045)911-0088 都筑区休日急患診療所1階 内科・小児科：午後8時～午前0時	②横浜市小児救急電話相談 #7499 平日：18時～翌朝9時 土曜：13時～翌朝9時 日祝日・年末年始：9時～翌朝9時
横浜市南西部夜間急病センター ☎(045)806-0921 泉区休日急患診療所 内科・小児科：午後8時～午前0時	横浜市歯科保健医療センター ☎(045)201-7737 休日・夜間救急歯科診療 休日診療：午前10時～午後4時 夜間診療：午後7時～11時

横浜市夜間急病センター ☎045-212-3535



横浜市北部夜間急病センター ☎045-911-0088



横浜市南西部夜間急病センター ☎045-806-0921



午前0時以降における 初期救急診療は

※受診する際は、必ず事前に電話確認してください。

小児科（小児救急拠点病院）

区	病院名	電話番号	内科	病院名	電話番号
都筑区	昭和大学横浜市北部病院	☎(045)949-7000	鶴見区	汐田総合病院	☎(045)574-1011
港北区	横浜労災病院	☎(045)474-8111	西区	けいゆう病院	☎(045)221-8181
鶴見区	済生会横浜市東部病院	☎(045)576-3000	中区	横浜中央病院	☎(045)641-1921
保土ヶ谷区	横浜上市市民病院	☎(045)331-1961	保土ヶ谷区	聖隷横浜病院	☎(045)715-3111
戸塚区	国立病院機構横浜医療センター	☎(045)851-2621	旭区	横浜旭中央総合病院	☎(045)921-6111
中区	横浜市立みなと赤十字病院	☎(045)628-6100	港北区	菊名記念病院	☎(045)402-7111
港南区	済生会横浜市南部病院	☎(045)832-1111	緑区	横浜新緑総合病院	☎(045)984-2400
			青葉区	横浜総合病院	☎(045)902-0001
			戸塚区	戸塚共立第1病院	☎(045)864-2501
			戸塚区	戸塚共立第2病院	☎(045)881-3205
			戸塚区	東戸塚記念病院	☎(045)825-2111

tvk「健康最前線」



5月～7月の放送予定

5月★15日 運動で健康になるの？	7月★3日 C型肝炎の最新治療②
★22日 運動・運動療法で病気の治療と病気の予防ができるの？	★10日 なぜ抗がん剤治療が必要なのかー大腸がんの場合①
★29日 うつを予防する①認知行動療法	★17日 高校野球のためお休み
6月★5日 うつを予防する②対人関係療法	★24日 高校野球のためお休み
★12日 性感染症について①	★31日 高校野球のためお休み
★19日 性感染症について②	
★26日 C型肝炎の最新治療①	毎週金曜日午後1時30分より (生放送のため、多少前後のずれがあります。ご了承下さい。)

青葉区休日急患診療所移転のお知らせ

4月12日より下記へ移転し診療を行っています

青葉区市ケ尾町31-21
市ケ尾駅より徒歩8分

TEL：045-973-2707
診療日：日曜・祝日と
12月30日～1月3日
診療科目：内科・小児科
診療受付時間：午前9時～12時
午後1時～4時

